

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101391		
法人名	有限会社 メディックス古沢		
事業所名	グループホーム野の花 1 ユニット		
所在地	島根県松江市大庭町1311-1		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1) 栄養バランスのとれた食事の提供をする為に、栄養士に管理してもらっている。「経口での食事」を重視し、食事の形態を食べ易いように個別で加工し、工夫している。  
 2) 毎月の季節行事を企画・開催し、コロナ禍においてご家族との関係を継続して頂けるように、ご様子を電話やお便りで伝えている。TV電話でご家族と交流して頂く機会も作っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の生活歴やしたいこと等を把握し、専門職と連携し在宅生活に近いその人らしい暮らしにつながるよう取り組んでいる。節分、敬老会、新年会等季節行事を企画し、日々抹茶を点てたり生け花、気の合う利用者同士で将棋をする等生活感のある暮らしにつなげている。コロナ禍、家族との面会も一時できていたが、現在、感染拡大防止でスマホでラインやテレビ電話、リモート面会を実施し県外在住の家族から「喜んでいる」との声がある。マスクが入荷困難な時期、職員が布を持ち寄り利用者がプリーツマスクを裁縫する等共同で感染防止に取り組むことができた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える所に提示し、主に全体会議の終わりに必ず全員で読上げ、理念を共有し、実践につなげて行けるよう努めている。	掲示や全体会議で唱和したり、毎月各ユニット会議で利用者を尊重した対応や思いに寄り添った話し合いを行い、理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行につき、ボランティアの受入れや地域の方との交流する機会が無くなっている。	ボランティアとの行事は中止している。近隣の人と散歩中に挨拶を交わしたり敷地内の草刈りを業者から近隣の人に変更し、利用者の様子を見てもらえるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験・福祉体験の受け入れをしたが、コロナ禍につき、現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍につき、運営推進会議は休止しているが定期的に介護保険課へ資料送付し、活動報告をしている。	コロナ禍の中、書面で利用者の状況や取り組みを報告し助言や意見を聞くようにしている。定期的に発行している「野の花新聞」も郵送し利用者の日頃の様子等が伝わるように工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍につき、運営推進会議等の開催はできていないが市町村との連携をとり、必要時はアドバイスをもらっている。	困難事例の受診時の対応方法や入居の受け入れの情報等、相談しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催し、ユニット会でも実施しているケアについて話し合い、職員に再確認をもらっている。	法人全体の講義や外部講師を招き資料を基に事例や注意点を確認し身体拘束の理解を深めている。定期的に勉強会を実施し帰宅願望の人の行動を抑制しない声掛けや対応方法等話し合い取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には職員が偏ることなく参加している。全員で虐待が見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様の意向で成年後見制度を利用される方があった。コロナ禍だが勉強会を開催し、理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には資料送付して家族の理解、納得を頂いている。契約時には重要事項説明書等をわかり易く読上げて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当を設けている。定期的に家族アンケートを取ったり、運営に反映させるようにしている。	電話や「野の花新聞」等で日頃の様子を詳しく伝え、定期的な家族アンケートで意見や要望を聞いている。県外在住家族にライン電話やリモート面会を実施し喜んでもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談で、職員の意見を聞く機会を設けている。	報告、連絡、相談等聞く機会を設け反映させている。夜勤中の休憩時間を設けたり、利用者の介助方法について話し合い就業規則や業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格別・役職別に手当を設定し、向上心をもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・リーダー研修への受講など段階に応じて研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍につき、交流機会は作れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでの事前面接を通し、本人自身から気持ちを聞き、また入居後も不安・要望がないか聞くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでに家族と十分な話し合いの中で要望や注意点を聞き取り、安全で穏やかに生活していただけるように努力し、家族とも良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でゆっくりと話を聞き、必要としている支援を見極めるようにしている。必要ならば医療機関も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事の把握に努め、日々の生活の中で役割をもち、暮らしを共にしている。出来る事はしてもらい、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍につき、ICT導入支援事業費補助金を受けて、オンライン面会を通し、入居者と家族と職員が一体となって、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会を通し、入居者と家族・友人・知人との交流をされている。	スマホで写真を送り送ったり、電話が来た時には取りつぎ友人、知人、家族と関係が途切れないよう支援している。友人、家族から年賀状が届く人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声を掛けやすい状況を作り出したり、座席も配慮をし、利用者同士の関係が深まるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、状況に応じ対応をしている。他の事業所に移られた場合は情報提供し、これまでの生活の継続性が損なわれないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに職員の担当制を取り入れ、担当者が主となり家族との交流を深め、何でも言っただけの関係を作り、本人や家族の思いの把握に努めている。	家族から情報収集したり利用者の話をよく聞き、変化や様子に応じたケアや、自分が大切にされていると感じてもらえるケアに努めている。「自宅でBSテレビで歌番組を聞いていた」の声にBS対応をした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「暮らしの情報シート」を用いて、ご家族からこれまでの暮らしの情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の流れ、リズム、心身状態を把握し、本人が持てる力を見出すことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各ユニットごとに会議を開催している。担当者を中心に本人、家族の思い、意見を考慮し、それを元に介護計画を作成している。必要に応じ、栄養士・理学療法士からも情報を収集している。	担当職員が家族や利用者の思いを聞き各ユニット会議で話し合い必要に応じて専門職から情報を得て現状に即した介護計画を作成している。「他者と楽しくお話しして過ごしたい」等の要望も目標設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や引継ぎノートを利用し、後にユニット会にあげている。入居者様の言葉やご様子もふまえ、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	衣類・下着や寝具等の洗濯なども全て無料で行き、通院介助の付添い等も柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍につき、地域との交流機会は持てなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら、連絡ノートを作成し、連絡・相談を行いながら適切な治療が受けられるよう支援している。受診の出来ない方には定期的な往診で対応をしている。受診介助も行っている。	利用者、家族の意向を確認しかかりつけ医の継続や協力医による訪問診療等で適切な医療を受けられるように支援している。家族対応の受診時には連絡ノートを活用し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の契約をしている訪問看護ステーションとの連携。職員による健康チェックを日々行い、異常があったり入退院等があれば報告し常に、医療面でのサポートを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は苑長(看護師)が関わり、主治医からの説明を聞くようにしている。医療相談室等との連携を密にし、退院後の受け入れについても相談しながら行い、より良い関係が維持できるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向を確認している。終末期の時期には主治医・ご家族と十分に話し合い、看取りを希望された場合は、ご家族と契約に基づき取り組む。その際には、主治医を中心として訪問看護ステーション・職員が方針を十分に理解し取り組んでいる。	家族の思いや主治医・関係者と話し合いを重ねながら各ユニットで看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法等の研修、勉強会等で学ぶ機会が作れるように努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火器の使い方や半月に1回の消防設備点検を行っている。緊急時連絡網の周知	消防署員から2階の避難が困難な人の退避場所の助言を受けている。利用者に火災報知機のベルが鳴っても慌てないように声がけをしたり、火災に関して職員の役割が掲示してあり日頃から意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気分を害されるような言葉遣いがないよう気を付け、人格を尊重するように心掛けている。	一人ひとりのペースや過ごしたい場所、過ごし方を尊重している。入浴、排泄時肌の露出が少なくなるようにタオルで覆ったり同性介助を希望されたら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の選択や、声掛けでやりたい事を引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや過ごし方を可能な限り尊重し、入居者様の安全を確保しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	乳液を好まれる人は商品がなくなれば化粧品店から届けてもらう方もいる。衣料品店から商品を預かり、好みの服を選択し購入された方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日メニューを取り入れている。下膳の出来る方には下げていただいている。	新年会や節分の行事にはちらし寿司等楽しみのメニューにし、誕生日には食べたい物を提供している。下膳のできる人は行っている。栄養士が栄養バランスのとれた食事の管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取がしやすいように食事形態や量を調整し提供している。水分も、とろみ剤を使用して提供するなどの支援もしている。栄養士が献立を立てバランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。2日に1回入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や、日々の様子観察で得た排泄サイクルを元にトイレ誘導を行い、個別の支援に努めている。	排泄の間隔に合わせ声がけしたり尿量やパットの種類を検討し、汚染が少なく睡眠時間の確保につながった人もいる。骨折後理学療法士に立位保持のアドバイスをもらいトイレで自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行っている。水分摂取の少ない方にはゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴案内をしているが、ご本人の気が向かない場合は別の日に案内する等、柔軟に対応している。	希望やタイミングに合わせて支援している。「同性に介助して欲しい」「浴槽に入りたい」の意見や、午前や午後の入浴時間の希望に柔軟に対応している。浴室で声がよく出るからと歌を歌う人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力等に合わせ臥床、離床の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容の把握に努めている。症状の変化が見られたら主治医に相談をしている。服薬は二人体制で確認している。服用が困難な場合は内服薬の形状変更を主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やカラオケ等のイベントを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍につき、外出機会は減少している。車中からの花見等行った。	花見外出をし車窓から見学した。コロナ禍で外出は減少しているが、他者との接触や天気等様子を見ながら敷地内を散歩し外気に触れ気分転換につなげるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は持っておられる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方には、苑の電話を利用してもらっている。携帯電話を持っておられ使用されている方もある。友人・ご家族様から年賀状の届く方がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居間もない方が外を見ると自宅に帰りたいという思いが強くなれば毎日、不安を抱えて過ごされている。少しでも不安を取り除けるように、障子閉めた対応を現在は行っている。居室に消臭剤を設置したり、スプレーの使用も行っている。	抹茶を点てたり、生け花をする等生活感や季節感を採り入れている。日差しに配慮し日中は障子の開け閉めで調光し心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座次も配慮している。ホールでテレビを見たり、利用者同士、話をしたり定位置でお茶を飲んだり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真を持参され、飾られる方もいる。	携帯、カセットデッキ、アルバム、植木鉢等馴染みの物を持参して、花の好きな人は水やりをし、本人が心地よく過ごせる環境にしている。職員は動線に配慮して安全に過ごせるように気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下、階段に手すりを設置し、利用者の安全、使いやすさに配慮している。居室についても個別に合わせた環境整備を行っている。		